

第2回ビジネス会計検定試験3級試験問題抜粋(一部修正)

(平成20年2月3日施行)

次の【問1】～【問4】の設問に答えなさい

【問1】 次の文章の空欄(ア)から(エ)に当てはまる語句の適切な組み合わせを選びなさい。

今日の企業会計では、(ア)主義によって認識し、対価としての(イ)額に基づいて計上した収益に、(ウ)主義によって認識し、(エ)額に基づいて計上した費用を対応させることによって、期間損益を計算している。

- (ア)発生 (イ)評価 (ウ)実現 (エ)取得原価
- (ア)発生 (イ)収入 (ウ)実現 (エ)支出
- (ア)現金 (イ)収入 (ウ)発生 (エ)支出
- (ア)実現 (イ)収入 (ウ)発生 (エ)支出
- (ア)実現 (イ)利益 (ウ)発生 (エ)取得原価

【問2】

(ア) 株価収益率が20倍、1株当たり当期純利益が40円の時、1株当たり株価は800円である。
(イ) 発行済株式数が10,000株、当期純利益が2,000,000円の時、EPSは200円である。

- (ア)正 (イ)正
- (ア)正 (イ)誤
- (ア)誤 (イ)正
- (ア)誤 (イ)誤

【問3・問4共通】 次の資料（単位：百万円）により、【問3】と【問4】の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。貸借対照表はここに記載されている項目だけで構成されているものとする。なお、純資産は各自で計算すること。純資産を自己資本とみなす。

A社の貸借対照表		B社の貸借対照表	
流動資産	700	流動資産	1,000
固定資産	1,000	固定資産	2,000
流動負債	400	流動負債	500
固定負債	600	固定負債	1,500
純資産	()	純資産	()

【問3】

(ア) 正味運転資本を計算すると、A社の方がB社よりも多い。
 (イ) 流動比率を計算すると、A社の方がB社よりも高い。

- (ア) 正 (イ) 正
 (ア) 正 (イ) 誤
 (ア) 誤 (イ) 正
 (ア) 誤 (イ) 誤

【問4】

(ア) 貸借対照表構成比率における固定資産の割合は、A社の方がB社よりも高い。
 (イ) 自己資本比率を計算すると、A社の方がB社よりも高い。

- (ア) 正 (イ) 正
 (ア) 正 (イ) 誤
 (ア) 誤 (イ) 正
 (ア) 誤 (イ) 誤

次の資料により、【問1】から【問4】の設問に答えなさい。なお、貸借対照表、発行済株式数、および従業員数の数値は期末値を使うものとする。また、純資産を自己資本とみなす。金額単位は明記した部分を除き百万円とする。

< 貸借対照表の抜粋：2007年3月31日 >							
流動資産	3,000	固定資産	2,000	繰延資産	なし	流動負債	2,000
固定負債	1,000						
< 損益計算書の抜粋：2006年4月1日～2007年3月31日 >							
売上高	5,000	売上原価	3,000	販売費及び一般管理費	1,000		
営業外収益	550	営業外費用	300	特別損益	なし		
法人税、住民税及び事業税	550	法人税等調整額	なし				
< 発行済株式数：2007年3月31日 >					35百万株		
< 従業員数：2007年3月31日 >					100名		
< 1株当たり株価：2007年3月31日 >					600円		

【問1】 総資本経常利益率は(ア)%である。空欄(ア)に当てはまる数値を選びなさい。

10 20 25 40 45

【問2】 流動比率は(エ)%である。空欄(エ)に当てはまる数値を選びなさい。

40 60 80 120 150

【問3】 株価収益率は(カ)倍である。空欄(カ)に当てはまる数値を選びなさい。

10 20 30 40 50

【問4】 1人当たり売上高は(キ)百万円である。空欄(キ)に当てはまる数値を選びなさい。

10 20 30 40 50

【正解】 【問1】 【問2】 【問3】 【問4】

【問1】 【問2】 【問3】 【問4】